

第9章 インターネットの利用

1 所持している機器

スマートフォンの所持率が69.3%、ネットに接続できるゲーム機の所持率が75.6%。

前回の調査に続き、今回の調査でもインターネットに接続できるパソコンや携帯電話・スマートフォン・タブレット端末・ゲーム機などの機器をもっているかをたずねた。「持っている」と回答した児童・生徒の割合が93.8%と、高くなっている(図9-1)。

所持している端末を見ると、「ゲーム機」が75.6%と最も高く、次いで「スマートフォン」が69.3%、タブレット端末が42.6%の順となっており、いずれも過去の調査より高くなっている(図9-2)。

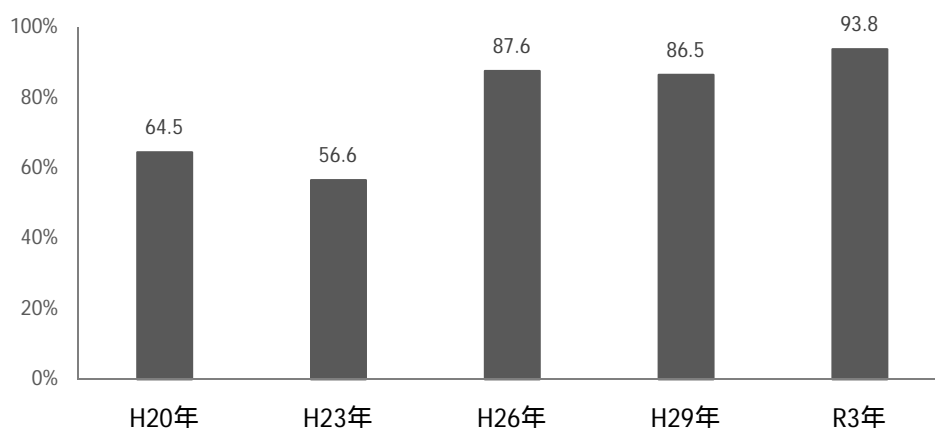


図9-1 [児童・生徒] インターネットに接続できるパソコンや携帯電話・スマートフォン・タブレット端末・ゲーム機などの機器を「持っている」(H20年、H23年:携帯電話を「持っている」)

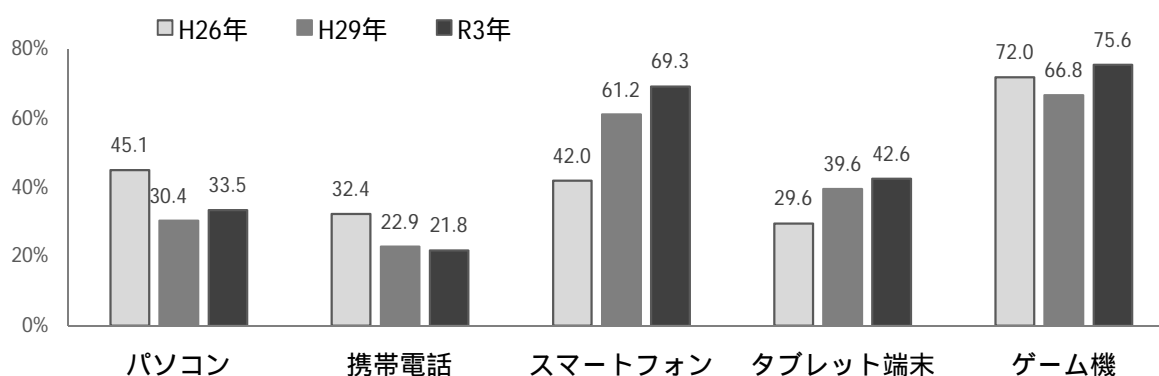


図9-2 [児童・生徒]所持している端末

男女別に見ると、スマートフォンの所持率では、女子のほうが高く、ゲーム機では男子のほうが高くなっている。また、学年別では、スマートフォンを持っている小学生の割合が約5割に対し、中学生は86%を超えている。ゲーム機の所持率は小学生で約8割に対し、中学生に入ると、学年が上がるにつれて低くなっている（図9-3、図9-4）。

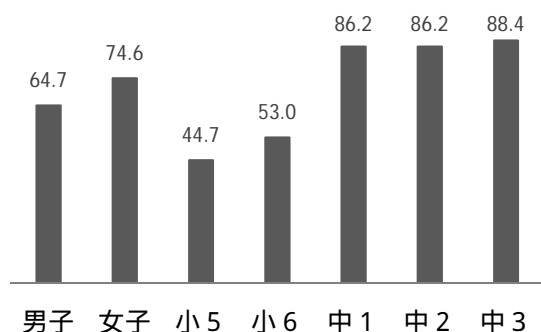


図9-3 [児童・生徒]スマートフォンを「持っている」

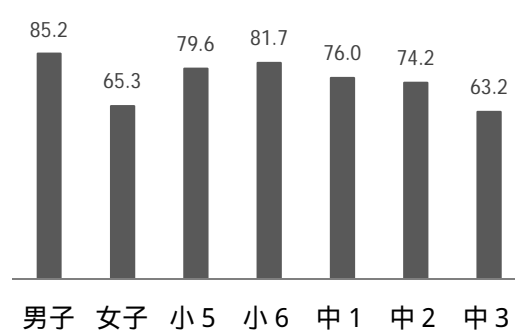


図9-4 [児童・生徒]ゲーム機を「持っている」

保護者の回答を見ると、子どもは、ラインなどのSNS機能の付いた携帯電話・スマートフォン・タブレット端末・ゲーム機などを「持っている」と回答した割合が73.5%となっており、H29年調査より20ポイント弱高くなっている（図9-5）。

子どもにスマートフォンなどを所持させることを決めた理由についてたずねたところ、最も高い割合を示したのは、「すぐ連絡が取れるので便利だから」の68.5%で、次いで「子どもが欲しかったから」の48.1%となっている。過去4回の調査に比べて、「すぐ連絡が取れるので便利だから」「ほかの子どもも持っているから」「子どもとのコミュニケーションを図るため」と回答した割合がやや高くなっている。「子どもの居場所や行動を確認するため」(39.4%)がH26年、H29年調査より高くなっているが、H20年とH23年の調査に比べて、大きく下回っている（図9-6）。

一方、子どもにスマートフォンなどを所持させない理由について、「スマートフォン等には弊害も多いと思うから」が56.8%と最も多く、次いで「子どもはスマートフォン等を持つ必要がないと思うから」(51.9%)だった。過去4回の調査に比べて、「スマートフォン等には弊害も多いと思うから」が高くなり、「費用がかかるから」「子どもが欲しがらないから」の割合が低くなっている。また、「子どもはスマートフォン等を持つ必要がないと思うから」はH26年とH29年の調査に比べて約10ポイント高くなっている（図9-7）。

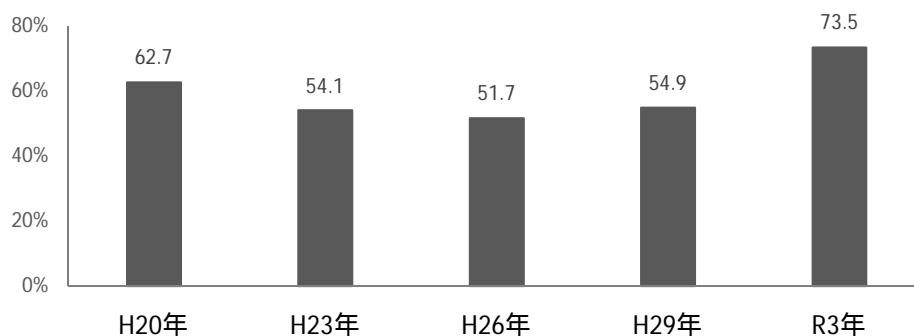


図9-5 [保護者]子どもは、LINEなどのSNS機能の付いた携帯電話・スマートフォン・タブレット端末・ゲーム機などを「持っている」(H20年、H23年:子どもは携帯電話を「持っている」)

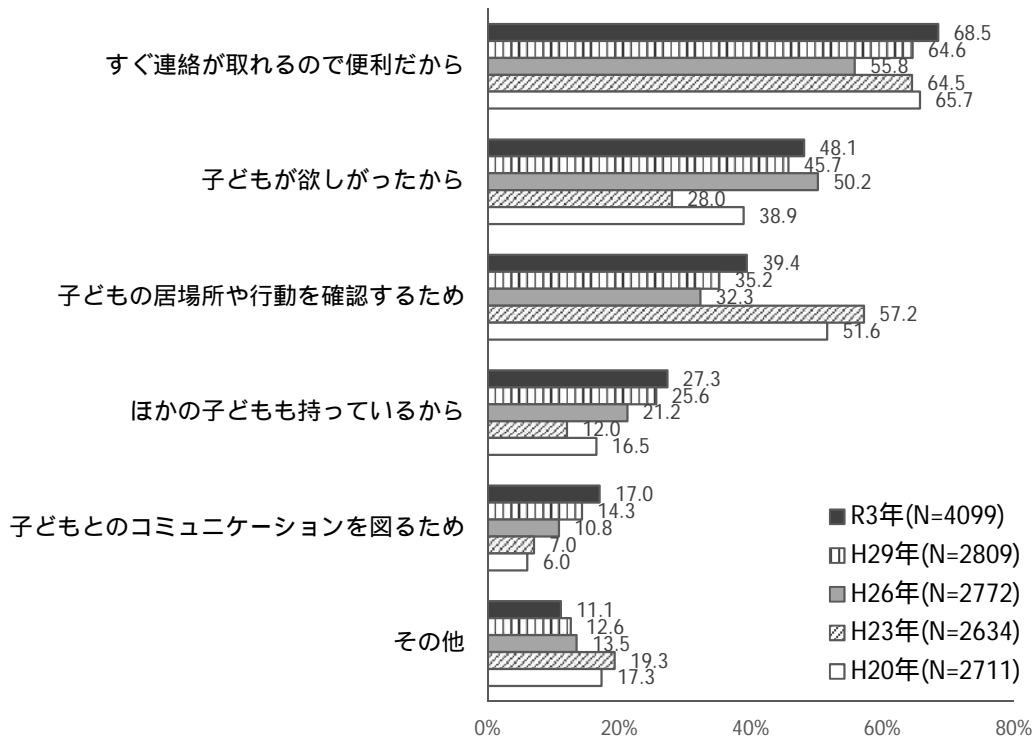


図 9-6 [保護者] (子どもがスマートフォンなどを「持っている」と回答した者)子どもにSNS 機能のついた携帯電話・スマートフォン・タブレット端末・ゲーム機など(H20年、H23年:携帯電話)を持たせることを決めた理由(複数回答)

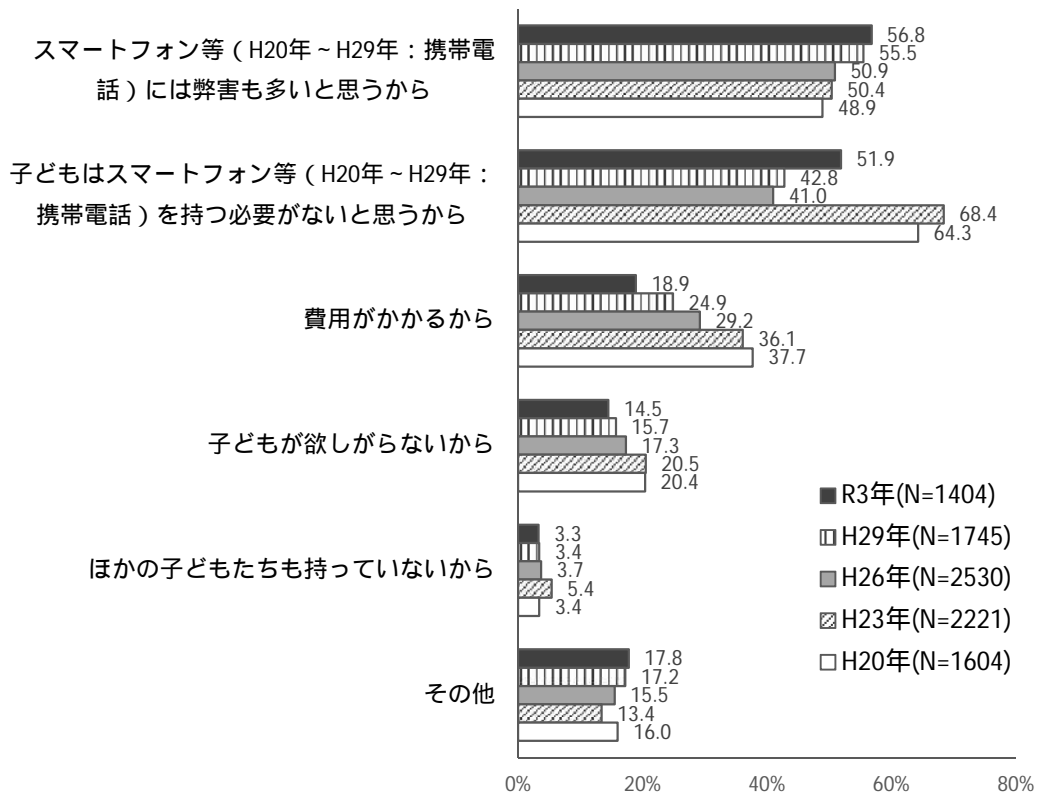


図 9-7 [保護者] (子どもがスマートフォンなどを「持っていない」と回答した者)子どもにSNS 機能のついたスマートフォン・携帯電話・タブレット端末・ゲーム機など(H20年、H23年:携帯電話)を持たせない理由(複数回答)

2 スマートフォンなどを利用している機能と利用時のルール

利用機能が多岐にわたり、「利用時間を決めた」が多くなっている。

「パソコンや携帯電話・スマートフォン・タブレット端末・ゲーム機などのどの機能を使っているか」と複数回答でたずねたところ、「インターネット」が73.7%と最も高く、次いで「動画」が68.7%、「ゲーム」が66.2%、「ラインなどのSNS」が61.7%の順となっている。H26年とH29年調査に比べて、いずれも使用の割合が高くなっている。また、「音楽」「通話」「カメラ」「本・コミック」「ショッピング」も高まっている。スマートフォンなどの普及に伴い、利用している機能も多岐にわたっていることが見て取れる（図9-8）。

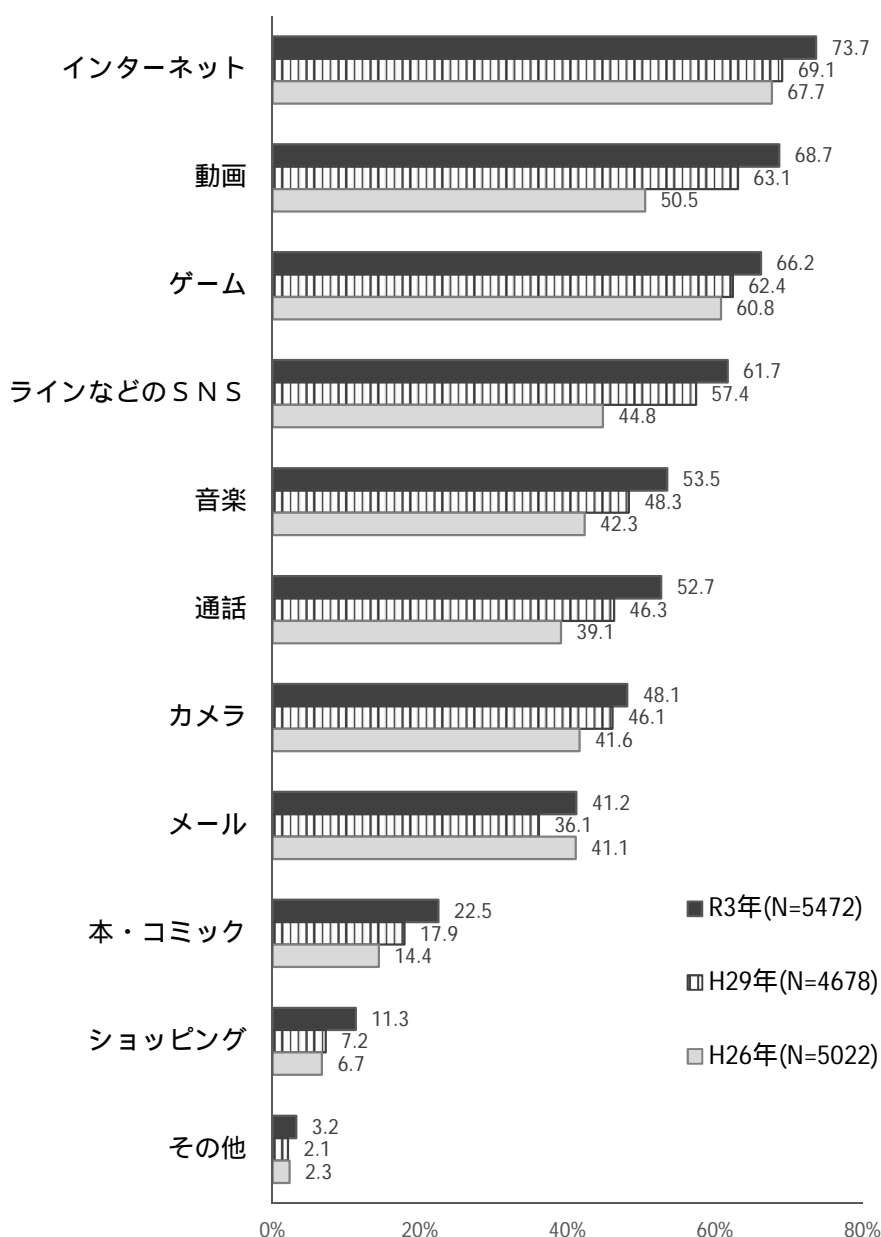


図9-8 [児童・生徒](スマートフォンなどを「持っている」と回答した者)利用している機能(複数回答)

利用している機能を男女別に見ると、男子の割合が女子より高いのは「インターネット」「ゲーム」であり、女子の割合が男子より高いのは「ラインなどのSNS」「通話」「メール」「カメラ」「本・コミック」「音楽」「動画」「ショッピング」である。女子のほうがより多くの機能を利用していることがわかる(図9-9)。

学年別に見ると、利用している機能は学年進捗とともに高くなる傾向にある。ここでは使用の割合が上位となった4項目の学年別の結果を図9-10にまとめる。中3では「インターネット」「動画」「ラインなどのSNS」の利用率がいずれも8割を超えており、「ゲーム」では中1が7割強と、最も高くなっている。

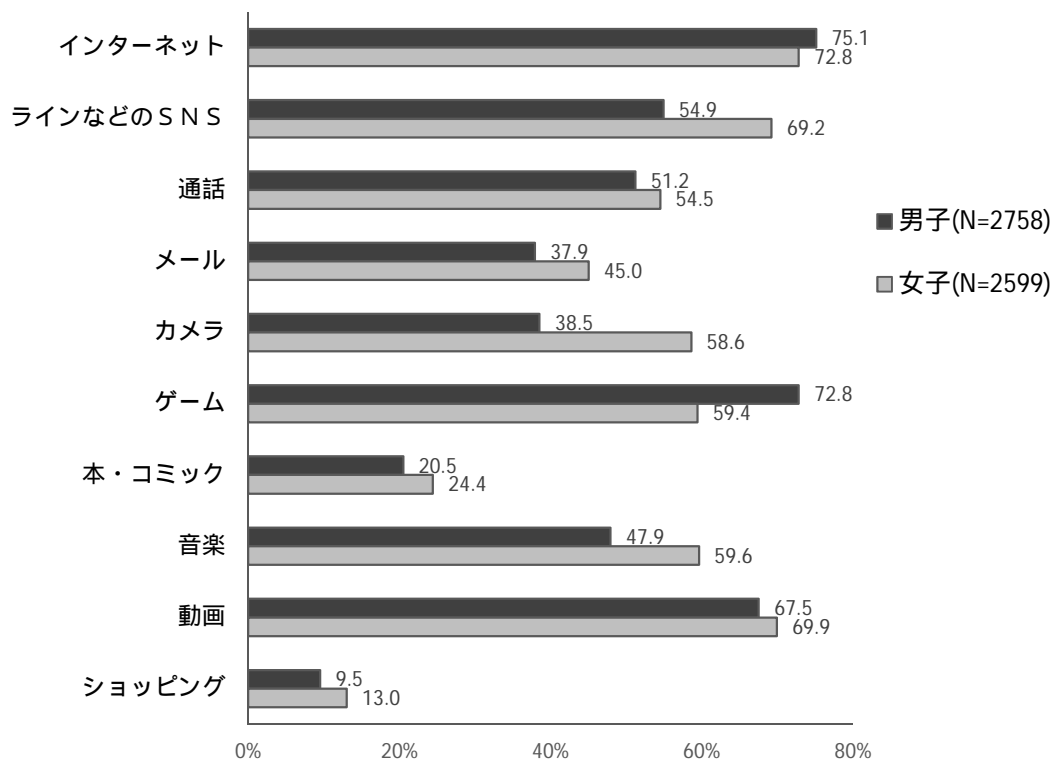


図9-9 [児童・生徒]男女別/(スマートフォンなどを「持っている」と回答した者)利用している機能(複数回答)

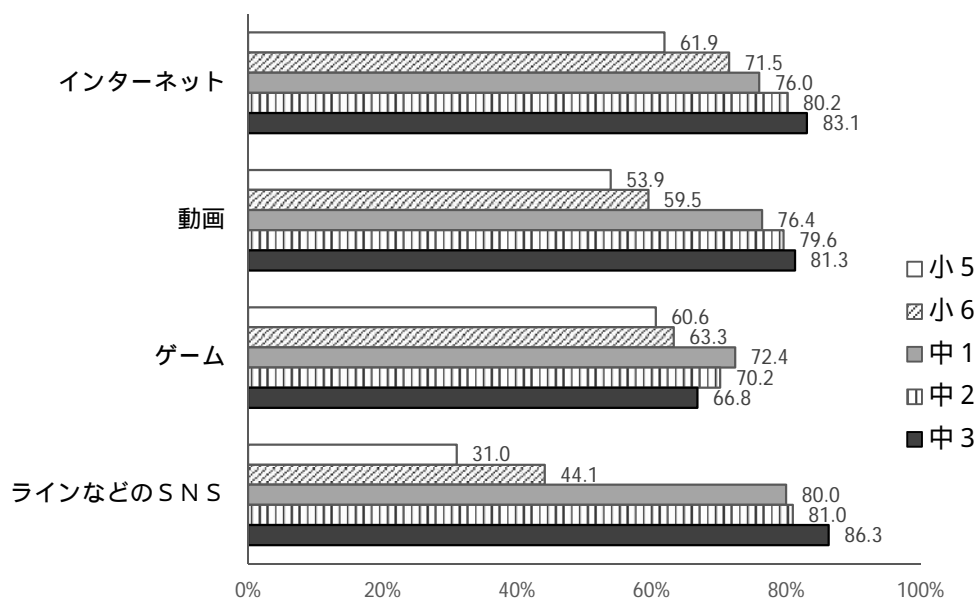


図9-10 [児童・生徒]学年別/(スマートフォンなどを「持っている」と回答した者)利用している機能(複数回答、一部)

児童・生徒に「あなたの家では、パソコンや携帯電話・スマートフォン・タブレット端末・ゲームなどの利用料金・利用時間など、ルールが決められているか」とたずねたところ、「はい」と回答した割合が44.6%と、H29年調査に比べてやや低くなっている。特に小5と中3ではその減少率が大きい(図9-11)。

また、保護者に子どもの「SNS機能のついた携帯電話・スマートフォン・タブレット端末・ゲーム機などの利用について、何かルールを決めて使わせているか」とたずねたところ、「フィルタリングサービスに加入した」「利用時のマナーを決めた」と回答した保護者の割合がいずれも5割を超えている。「利用時間を決めたと、H29年調査より14ポイント高くなっている。「利用料金の上限を決めた」が年々減少している(図9-12)。

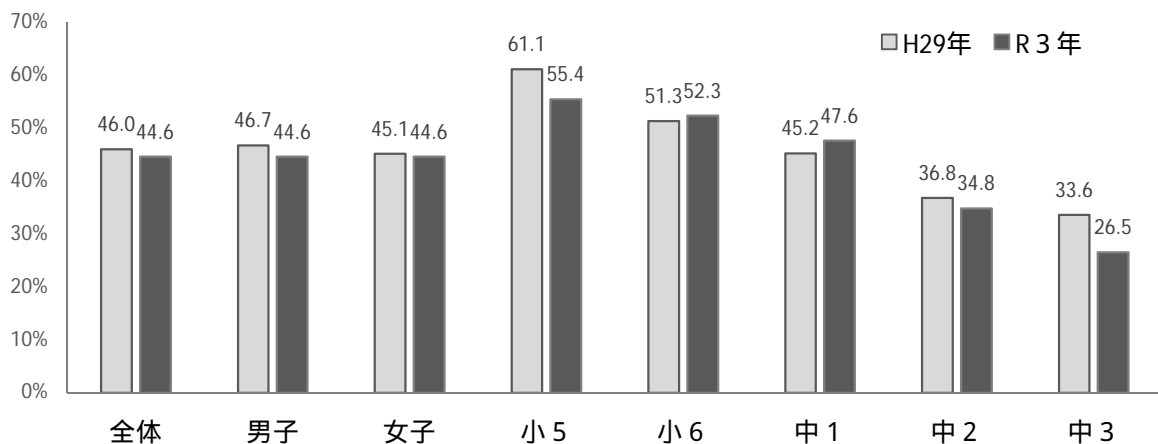


図9-11 [児童・生徒](スマートフォンなどを「持っている」と回答した者)家では、パソコンや携帯電話・スマートフォン・タブレット端末・ゲームなどの利用料金・利用時間など、ルールが決められている

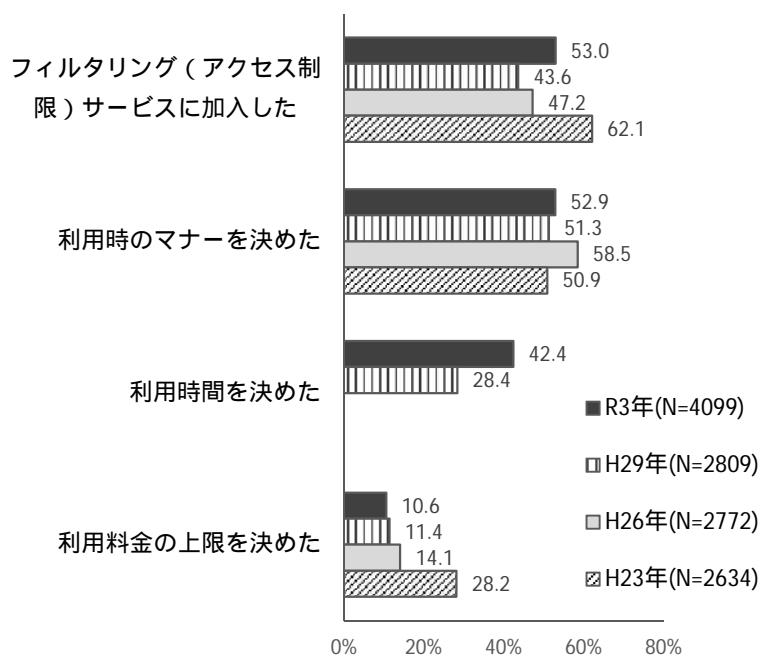


図9-12 [保護者](子どもがスマートフォンなどを「持っている」と回答した者) SNS機能のついた携帯電話・スマートフォン・タブレット端末・ゲーム機など(H23年:携帯電話)の利用についてのルール(複数回答)

3 インターネットの利用とそのルール・目的

インターネットの利用率が増え、「ルールを決めている」も増えている。利用の目的は主に情報検索・調べものである。

保護者に「お子さんは、インターネットを利用していますか」とたずねた。「利用している」と回答した保護者の割合は 89.3%と、過去 4 回の調査に比べて 10 ポイント以上も高くなっている（図 9-13）。

また、子どもの 1 日のインターネットの利用時間を「決まっていない」と回答した保護者の割合が 4 割弱で、H26 年と H29 年の調査に比べて、低くなっている。決まっているという割合の分布をみると、「1 時間以内」の割合が年々低くなり、「2～5 時間以内」「5 時間以上」が高くなっている。子どものインターネットの利用時間について、緩くなっていることがわかる（図 9-14）。

児童・生徒の回答では、「家では 1 日にインターネットを使う時間は決まっていない」と回答した割合が 5 割強となっており、保護者の 4 割弱と差が見られた（図 9-15）。保護者側では決めてい

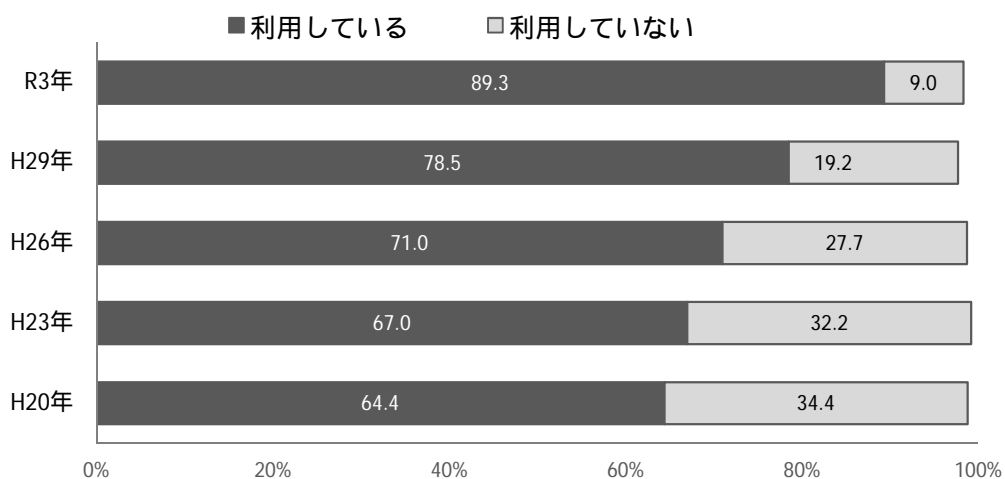


図 9-13 [保護者]子どものインターネットの利用状況

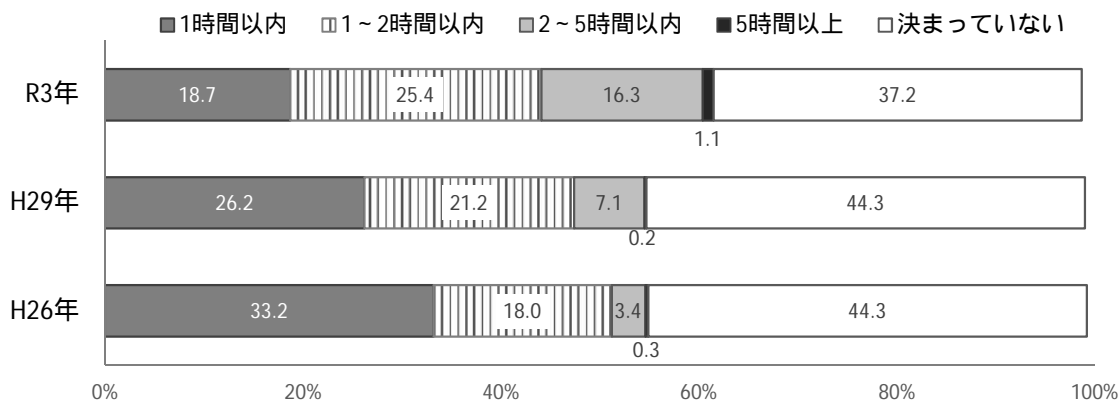


図 9-14 [保護者](子どもに対する)1 日のインターネットの利用時間を決めていますか

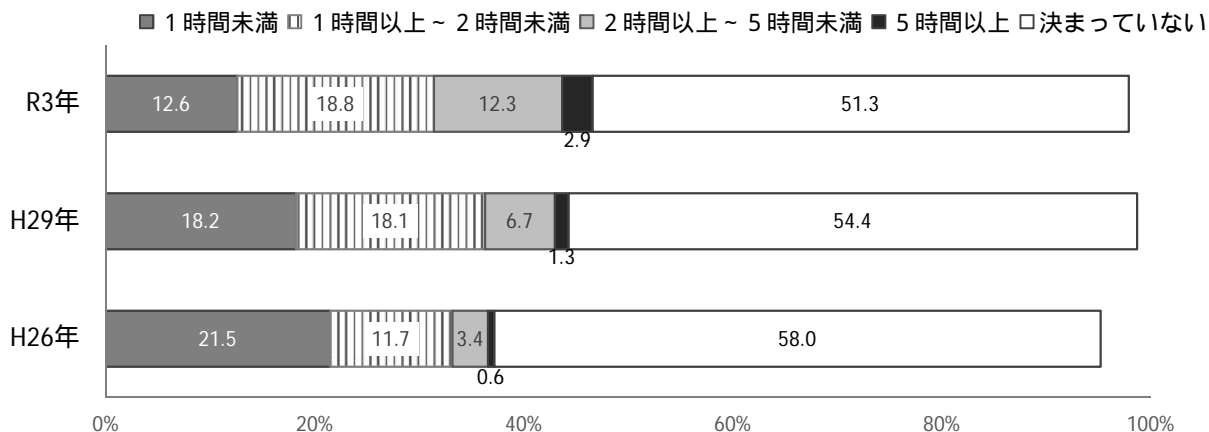


図 9-15 [児童・生徒](インターネットを利用していると回答した者)あなたの家では、1日にインターネットを使う時間は決められていますか

保護者に子どもの「インターネットの内容をチェックしたり、制限したりしていますか」とたずねたところ、「している」と回答した割合が6割強で、H29年調査よりやや高くなっている(図9-16)。一方、児童・生徒の回答では、家では、インターネットにアクセスする内容などについてのルールは「決められている」と回答した割合が4割強にとどまり、ここでも親子の認識の違いが見られた(図9-17)。

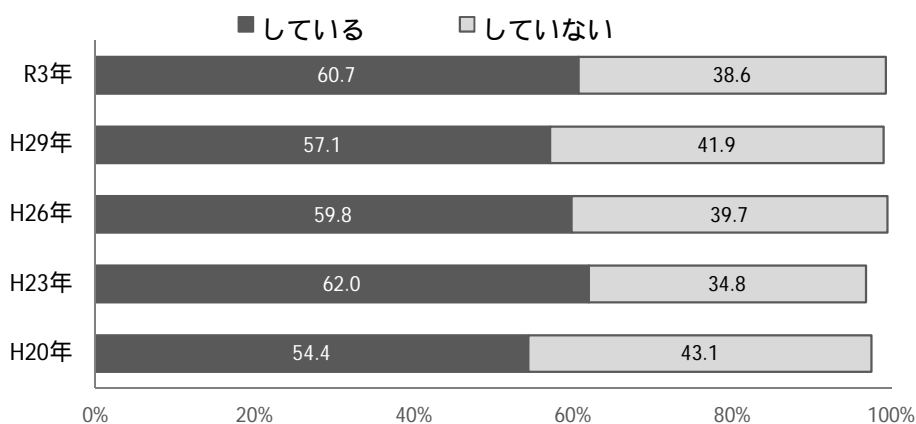


図 9-16 [保護者] (子どもに対する)インターネットの内容をチェックしたり、制限したりしていますか

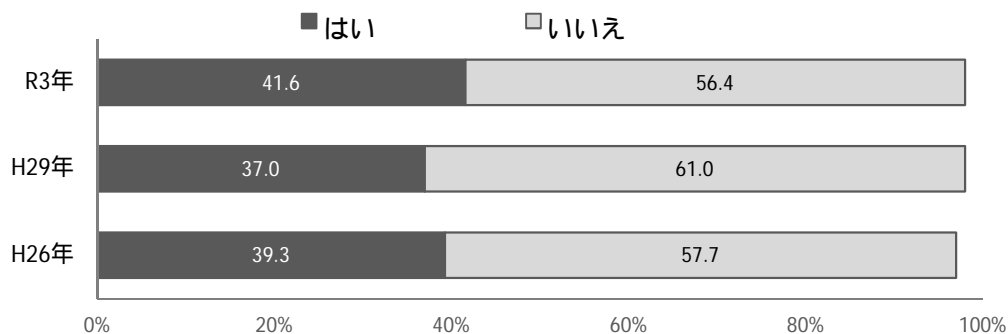


図 9-17 [児童・生徒] (インターネットを利用していると回答した者のみ)あなたの家では、インターネットにアクセスする内容などについてのルールは決められていますか

また、子どもがインターネットを利用している目的について、「情報検索」と回答した保護者の割合が89.3%と際立って高い(図9-18)。児童・生徒の回答でも、「調べもの」が84.8%となっており、保護者とほぼ同じである。H26年とH29年の調査に比べて、「イライラや不安を解消する」「現実とは違う世界を感じる」の割合が高くなっている(図9-19)。

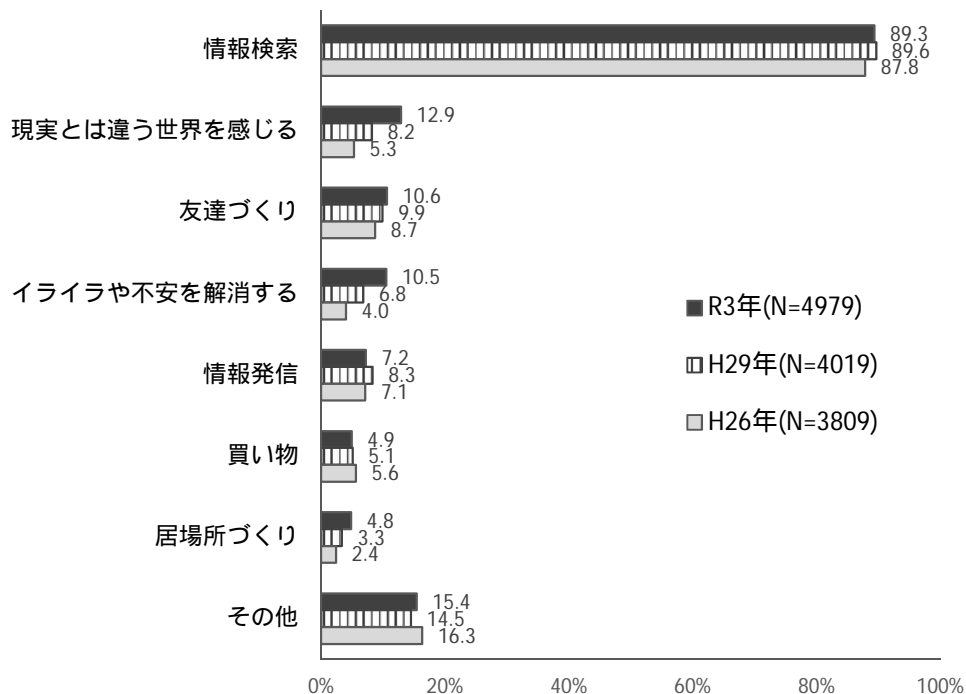


図9-18 [保護者](子どもがインターネットを「利用している」と回答した者)子どもがインターネットを利用している目的(複数回答)

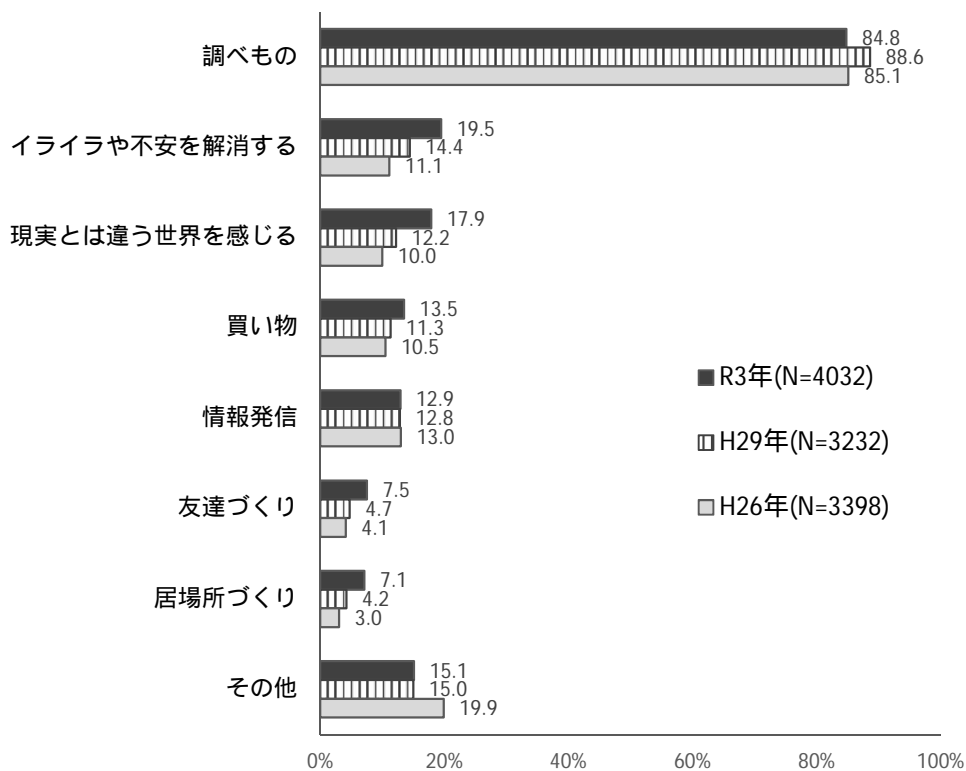


図9-19 [児童・生徒](インターネットを利用していると回答した者)インターネットを利用している目的(複数回答)

4 SNS利用に対する不安感

子どものSNS利用に不安に感じたことが「ある」と回答した保護者の割合が64.6%に対し、児童・生徒は10.8%にとどまっている。

前にも述べたが、「ラインなどのSNSを利用している」児童・生徒の割合が61.7%となっており、H29年の調査よりやや高くなっている。また、男女別と学年別の利用率を見ると、図9-20のとおり、女子のほうが高くなっている。また、中学生の利用率が8割を超えている。

児童・生徒に「SNSを使っていて犯罪やトラブルなどに巻き込まれる危険を感じたことがありますか」とたずねたところ、「はい」と回答した割合は10.8%にとどまっている（図9-21）。一方、保護者の回答では、子どもがラインなどのSNSを利用して不安に感じるものが「ある」と回答した割合は64.6%となっており、児童・生徒の回答とは大きい開きを見せた（図9-22）、H29年調査に比べて、両者ともその割合がやや高くなっている。

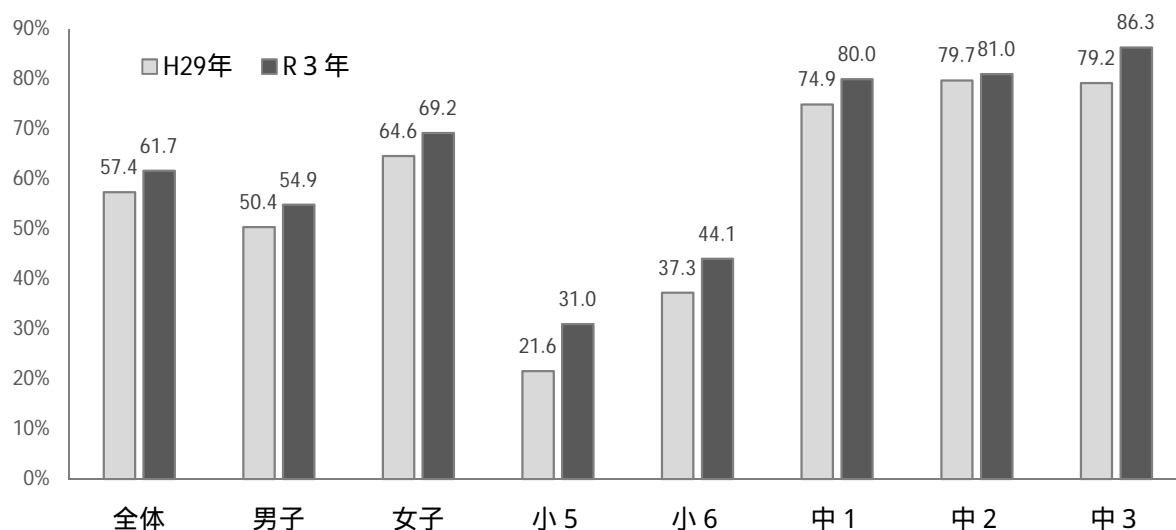


図9-20 [児童・生徒] (インターネットを利用していると回答した者)ラインなどのSNSを利用している

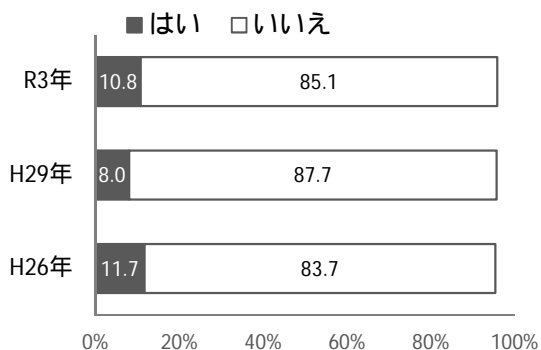


図9-21 [児童・生徒] SNSを使っていて犯罪やトラブルなどに巻き込まれる危険を感じたことはありますか

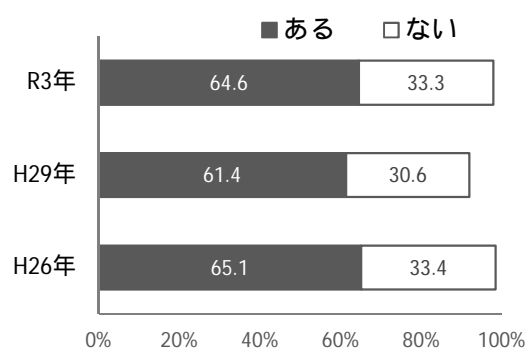


図9-22 [保護者]子どもがLINEなどのSNSを利用して不安に感じることはありますか

また、感じた不安の内容を見ると、児童・生徒の割合が高いのは「ウイルス感染」「詐欺被害」「批判・悪口」「個人情報の流出」で、いずれも3割台となっている。一方、保護者の回答では、割合が最も高いのは「ネットいじめ」の69.3%である。次いで「個人情報の流出」が60.1%、「誹謗・中傷」が50.8%となっている。H29年調査に比べて、児童・生徒では、「詐欺被害」の割合が高くなり、その以外の項目ではいずれも低くなっている。保護者の回答ではあまり変化が見られなかった(図9-23、図9-24)。

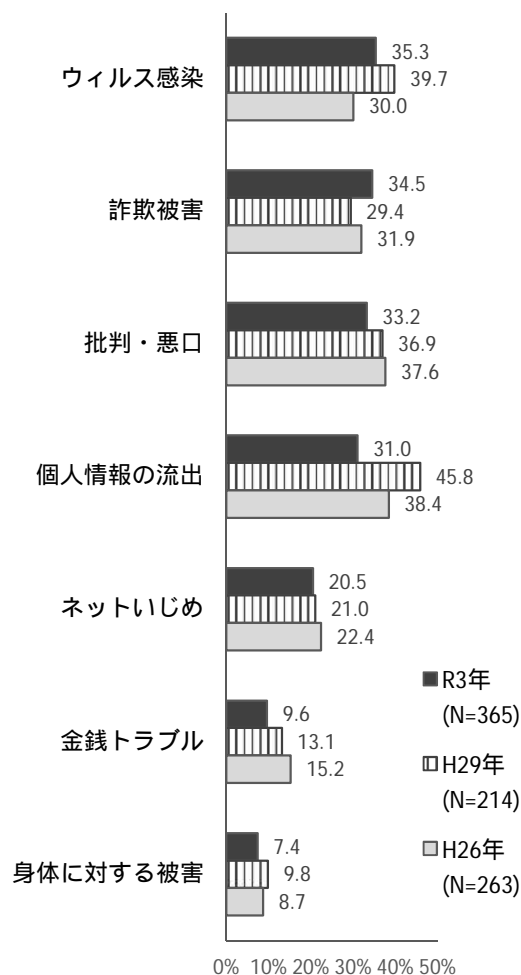


図9-23 [児童・生徒] (SNSを使っていて犯罪やトラブルなどに巻き込まれる危険を感じたことはあると回答した者) SNSを使っていて、どのような危険を感じたことがありますか(複数回答)

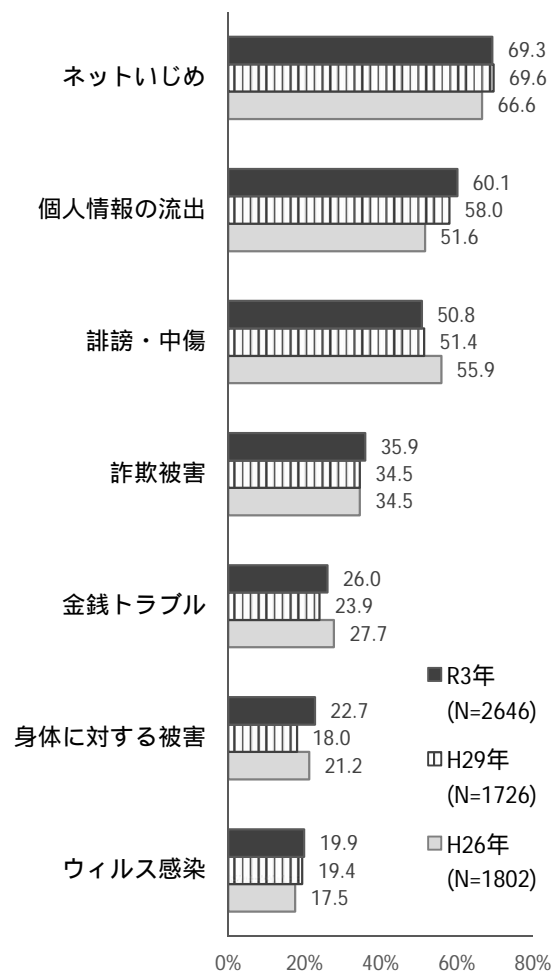


図9-24 [保護者] (子どもがLINEなどのSNSを利用して不安に感じる事が「ある」と回答した者) 不安に感じる事(複数回答)